



傾斜タイプのサイドハンドルの中央が重心に近いので、取り回しが良く、腕への負担が少ない



「軽さ」は操作時のみならず、ハーネスにも下げているときにも大きなメリットとなる



## 充電式チェンソー DCS3620TL2

36V充電式チェンソーで最速のチェンスピード27m/sを誇る。バッテリー、ガイドバー、ソーチェンをつけての実測質量は3.1kgと軽量。傾斜タイプのサイドハンドルにより操作性に優れる。有効切断長さ244mm、2500mAhバッテリー付属で希望小売価格は8万9500円(税別)



詳しくは  
コチラ

着実に進化を遂げ、いまや造園業などプロの世界でも当然のごとく使われている充電式チェンソー。活況を呈する現状に各メーカーの注力ぶりがうかがわれるわけだが、さらにこの夏、見逃せない新機種が登場した。京セラのDCS3620TL2がそれ。36Vトップハンドルタイプのこのニューカマーは、特長を明確に打ち出しているところが興味深い。すなわち、①同クラスの他機種をしのぐチェンスピード、②切断抵抗が小さい薄刃のソーチェン、③摩擦抵抗を低減するスプロケットノーズバー、これらの組み合わせがもたらす快適な切断性能、そして軽さだ。トップハンドルの用途として真っ先に挙げられる高所での枝打ちに的を絞り、使いやすさを追求したことにより、他機種にはない性能にたどり着いたという



乾燥したサクラの丸太に斜めに切り込んでも軽快な切断性能を発揮

ことらしい。

そんなDCS3620TL2を携えて編集部が訪れたのは、神奈川県川崎市の大田区持田。3代目園主・持田智彦さんに、その実力を試してもらおうとした。早期から充電式チェンソーを採用し、現在は各メーカーの機種を使い分けているという持田さんは、「新機種が新たな仕事道具となり得るか興味津々の様子。ハンドルに手をかけるやいなや「ちよっと回しているですか?」「丸太切ってみていいですか?」とさっそく実用テストに入りました。「確かにチェンスピードが速いですね。立ち上がりも速い」「乾いて硬くなったサクラもよく切れますね。斜めに刃を入れると負荷が大きくて止まることがあるんですけど、大丈夫ですね。これくらい切ればストレスがない」。

続いては本番というべきか、立ち



この軽さはうれしいです

持田智彦さん  
創業90年となる庭乃持田園(☎ <https://www.niwanomochidaen.com/>)の3代目園主。早期から充電式チェンソーの静音性に現場での使いやすさを感じ、各メーカーの機種を使い比べてきたヘビーユーザー

木にぶら下がっての枝打ち。ナシからタイサンボクへと相手を変えながら、何本もの枝を切り落とすしていく。「使い勝手がいいですよ。重心のバランスがいていいですね。違和感がないんです。違和感がないというのは、よくできていていいことだと思います。切断性能もいいですね。タイサンボクはけっこう硬いんですけど、スムーズに切れました。この軽さでこれだけ切れたらいい。径20cmくらいまでの強剪定や枝下ろし(枝打ち)は、これ1台でいけそうです。あと軽くて助かるのは、切るときだけじゃなくハーネスにぶら下げるときも。ぶら下げるときは重さで疲労感かなり違うから重要なんですよ。丹念にプロの意見を聞きながら開発が進められたというだけあって、プロの評価は上々だった。軽くて切れる充電式チェンソー、それはもちろんプロのみならずDIYerにとってもきわめて魅力的な道具だ。

問い合わせ先: 京セラインダストリアルツールズ(株) ☎ 0570-666-787

# 軽い! 速い! 京セラ36Vチェンソーが プロ納得の性能で新登場

チェンスピードは  
クラス最速!

